

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月
国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

2. 学校概要

学校名 坂井市立鳴鹿小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒910-0336
福井県坂井市丸岡町楽間4-40

E-mail : nainfo@naruka.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 69名 女子 78名 合計 147名
児童・生徒の年齢 7歳～12歳

3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
 持続発展教育 (ESD) (国際理解 世界遺産 平和・人権 ○環境 気候変動 生物多様性 エネルギー 防災 ○食育 伝統文化 そのほか ())
 そのほか ()

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

「自然から学ぶ」「生活から学ぶ」「自然と共生していく」の視点から地域の自然環境と教科等との関連を考慮し学年ごとにテーマを設け環境教育に取り組んできた。

1年生・・・「しぜんとあそぼう」ビオトープや校庭の生き物、グリーンセンター（県施設）のドングリや落ち葉を使っての工作、雪遊び等年間を通して自然と触れあい、関わりながら季節の変化に気づき、五感を使って自然の不思議やすばらしさなど多くのことを感じ取ってきた。

2年生・・・「しぜんと友だちになろう」ビオトープや校庭、グリーンセンターでの観察や遊びなど実際にその場に出かけ自然に親しむ場を度々設けてきた。また、学校園では野菜の栽培やその収穫を体験し、その後の調理活動につなげた。自然の恵みを体全体で感じることに、自分で考えて活動することを大切にしながら学習を進めてきた。

3年生・・・「鳴鹿、大好き！鳴鹿ってどんなところ？」見学を中心に地区内外の人々や施設や自然に触れた。その活動を通して地区の良さを再確認し、自分たちの住む地区の環境を守っていこうとする気持ちが生まれた。

4年生・・・「鳴鹿っ子エコレンジャー」ゴミや水の学習を手がかりにして身近な環境問題に目を向け生活の仕方をふり返り、地球温暖化に関心を持ちエコライフについて考えたりした。

5年生・・・「米づくりで考えよう 鳴鹿の自然」まほろばファーム（学校田）で米づくりを体験。稲の生長調べや田や畦の生物調べ、藁やもみなどの有効活用などを通して農業と地域の環境との関係や自然界の巧みさや環境保全の大切さを学んだ。また、ゴーヤ、ヘチマなどで「緑のカーテン」を作った。水やりとともに温度測定を続け、食物を育てることの喜びと工夫して暮らすことの大切さを体感した。

6年生・・・「鳴鹿エコロジー作戦」ビオトープや校区内に生息しているホタルの実情を調査し、ホタルマップにまとめ、生物の生態系や地域の環境保全の大切さを学んだ。また、校区内の国指定史跡「六呂瀬山古墳群」について、現地を見学したり地域の方から講話を聞いたりして学習を深めた。ユネスコ世界遺産についての学習理解を並行して進めることで郷土の宝を愛し未来へ伝えていくことの意義を学んだ。これらのことは、公民館主催の三世代交流事業の場で地域の方々に発信した。

全校・・・「エコDSカード」（D：できることから S：すこしずつ）エコ集会を行った。この集会では、地球温暖化の現状や節電・節水等によって資源の無駄遣いを無くすことの重要性や環境保全の大切さを学んだ。その後、自分たちも資源の無駄遣いをしない生活を心がけ、実践したことをカードに記録するようにした。カードの記録は長期休業中のみ実施したが、日常的に児童の意識は高まった。

